

ネオニコ農薬抑制 県に要請

カメムシ駆除巡り消費者団体

カメムシによる斑点米被害を防ぐため、駆除に使わ

れるネオニコチノイド系農薬の抑制を求め、消費者団体などが3日、県に要請書を提出した。農家や首都圏の消費者でつくる「米の検査規格の見直しを求める会」や、長年にわたり消費者問題に関わってきたNPO法人「日本消費者連盟」などから10人が参加した。

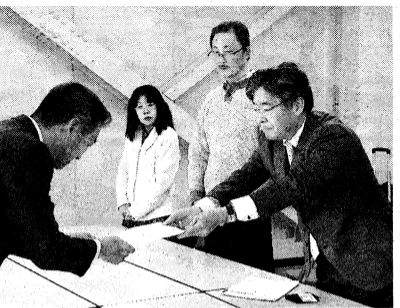
要請書は「ネオニコ系農薬などの過剰散布で、人や環境への影響が懸念される」と訴え、農薬の過剰散布の背景に、カメムシの被害で斑点米が混入すると、コメの等級が落ちて買い取り価格が大きく下がる事情があることを指摘。過剰散布を防ぐためには、「農協の過大な等級価格差の是正

が必要だ」と求めた。

渡辺兵衛・県水田総合利用課長は「コメの価格は民間取引で決まる。県がどうこう言える立場ではない」と説明しつつ、「等級価格差の合理的な根拠を説明できるように、全農などに求めていく」と答えた。

同連盟の山浦康明共同代表(65)は「ミツバチの大量死問題などで、ネオニコ系農薬の規制は、欧州連合(EU)をはじめ世界的に強化されている。斑点米排除のために農薬をたくさん使う流れを止めたい」と話した。

(曾田幹東)



要請書を手渡す消費者団体の関係者(右)

朝日新聞 秋田版 2014.0304